



心と心の結びつき

岡山県瀬戸内市立国府小学校

担当教科：全教科

尾崎 正美

◆実践教科：国語、道徳、総合的な学習 ◆時間数：21時間 ◆対象学年：小学5年生 ◆対象人数：29名

カリキュラム

ココがすばらしい!

マラウイの写真や民芸品を使ったクイズ作りを通して、一つのことをより深く観察することの大切さや面白さを子どもたちに伝えた。

◆実践の目的

児童にとって遠い存在のマラウイ。そのマラウイに生きる人々の生活や文化を、総合的な学習の時間の調べ学習や国語科の読解などを通して知ることにより、自分たちとの共通点や相違点に気付くことができるようにする。そこからさらに、道徳で青年海外協力隊員の心情を考え、マラウイの課題についても知り、マラウイの人々や世界で生きる日本人の思いを感じとる学習を行う。その活動を通して、マラウイの人々の心情をより深く思いやることができるようになることを目指し、遠いマラウイの人と心と心をつないでいきたいと思えるようにする。

外国について知ることは、自分たちの生活や文化を見直すことにもつながる。よって、この単元の学習では、マラウイの生活や文化を知ることを通して、児童が自分たちの生活を振り返り、世界へと視野を広げていくことを目的とする。そこから課題意識をもって、マラウイ以外の世界の国々へも目を向け、国は違っても地球に生きる仲間として、心と心をつなぎ、ともに支え合って生きていきたいと思うことができるようにする。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	協力隊ってどんな人?	・パワーポイントを用いた視覚資料を元にして、ニジェール、ジンバブエで活動していた元青年海外協力隊員の話聞く ・アフリカ諸国や青年海外協力隊について知る	出前講座 パワーポイント
2	マラウイってどんな国?	・「どこの国でしょうクイズ」の空欄を埋めていながら、それがどこの国を指すのかを地図帳やインターネットを用いて考える ・マラウイという国がアフリカにあることや、マラウイとニジェール、ジンバブエとの共通点や相違点に気付く	インターネット 地図帳 ワークシート
3	マラウイについて調べよう	・インターネットを用いてマラウイの生活について調べ、疑問に思ったこと、もっと知りたいことをまとめる	インターネット
4	マラウイを通して考えよう	・マラウイの写真や民芸品を元にして作成したパワーポイント教材によるフォトランゲージやマラウイの物によるものランゲージを体験する ・マラウイの人達の生活の日本との共通点・相違点について知る	パワーポイント マラウイの生活用品
5 13	人と「もの」との付き合い方	・国語科の教材文を読み取ることを通して、身の回りのものを大切に使うマラウイの人達のすばらしさに触れる ・マラウイの人と江戸時代の日本人との共通点にも気付く ・教材文の読解後、関心のある世界の環境問題について調べ、お互いに発表する	国語科教科書
14 15	マラウイクイズをつくろう	・マラウイの写真、日用品を用いて、グループに分かれてクイズを作る ・フォトランゲージ、ものランゲージの手法を用いてオリジナルのクイズを作り、学級でクイズ大会をする	マラウイの写真 生活用品
16	未来へ続く支援	・マラウイで活動するJOC A職員の話をもとに作成した道徳の資料を用いて、相手の国の未来を考えた支援を行っていることとする隊員の気持ちに触れる ・国際協力について考える	自作道徳資料
17 21	地球に生きる私たち	・これまでの学習から、同じ地球に生きる人間として、自分たちができる国際協力について考え、発表する	ワークシート

授業の詳細

1 学期

1 時限目 協力隊ってどんな人？

教師海外研修に参加する前の1学期に、児童にあらかじめマラウイと青年海外協力隊について興味をもってもらいたいと思い、ニジュールとジンバブエで活動されていた元青年海外協力隊のゲストティーチャー2名をお招きした。

児童は、アフリカの写真が印象的なパワーポイント資料に興味深く見ていた。元青年海外協力隊員の話聞き、アフリカや青年海外協力隊員に興味をもったようだった。パワーポイントのクイズにも積極的に答えていた。日本に住んでいる自分たちの生活との大きな違いに、衝撃を受けた児童が多かった。



青年海外協力隊員の話

児童の感想

- ・アフリカにもビルがたくさんあることに驚いた。
- ・食べるものが朝、昼、晩と同じなのがびっくりした。
- ・先生の来ている服がすてきだった。
- ・アフリカの食事を食べてみたい。
- ・自分も将来、協力隊になって、貧しい国の人々を助けたい。

2 時限目 マラウイってどんな国？

ワークシートの()をうめながら、問題文の国がどこなのか予想したり、地図帳を用いて調べていったりした。()の中に入る言葉は、担任が告げる。平均寿命の低さから、前時に聞いたジンバブエの話思い出した児童もいた。また、今まで聞いたことのない挨拶の言葉から欧米の国ではないだろうと予想した児童もいた。湖の大きさや首都の名前を聞いた時は、見当をつけたアフリカ地域を、地図帳で熱心に探していた。

前回同様、マラウイと自分たちの生活の違いに驚いた児童が多かった。マラウイについては、全員が初めて知った国だと答えたが、前時からのアフリカへの興味が高まった児童が多く見られた。

どこの国でしょう

5年()

()の中をうめて、どこの国か考えましょう。

- 1 平均寿命は()才です。 _____
- 2 国旗の意味は、()と()を表しています。 _____
- 3 小学校は()年間あります。 _____
- 4 「こんにちは」は()といひます。 _____
- 5 国土は()と()をあわせてくらいです。 _____
- 6 国土の()分の1は湖です。 _____
- 7 今の季節は()です。 _____
- 8 南北に()形をしています。 _____
- 9 首都は()です。 _____

その国について調べたことを書きましょう。

児童が使用したワークシート

児童の感想

- ・39才までしか生きられないことにびっくりした。ジンバブエと同じくらいだ。
- ・湖が広い。見てみたい。
- ・言葉がおもしろい。
- ・マラウイという国を初めて知った。
- ・どうして、39才までしか生きられないのだろう。

3時限目

マラウイについて調べよう 「マラウイについて知りたいこと」

前時でマラウイに興味をもったので、インターネットを用いて、マラウイの国や生活の様子について調べることにした。国旗について調べた児童が最も多く、他には食べ物、学校、貧困について調べていた。調べたことを学級で発表して情報を共有した。

しかし、インターネットから得られる情報には限度があり、もっと詳しいことを知りたいという思いがうかがえた。そこで、担任が夏休みにマラウイを訪問することを告げ、マラウイで実際に見てきてほしいこと、聞いてきてほしいことを書かせまとめた。

児童がマラウイについてもっと知りたいと思ったこと

- ・ご飯は何を食べているのか。
(ジンバブエのように毎日同じものなのか。)
- ・家族は何人くらいなのか。
- ・将来の夢は何だろう。
- ・うれしい時はどんな時なのか。
- ・なぜ、赤ちゃんの時に死ぬ人が多いのか。
- ・マラウイの人は、マラウイのどんなところが好きなのか。
- ・本当に子供の腕や足を切り落として、物乞いをさせるのか。(インターネットの情報より)
・・・など68種類の質問が出た。

★教師海外研修へ

2学期

4時限目

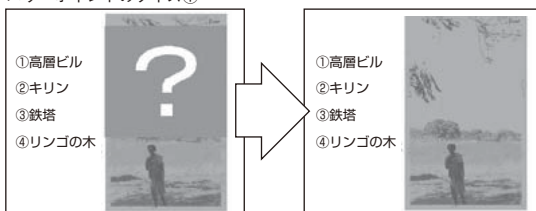
マラウイを通して考えよう

クイズ形式でパワーポイント資料を作成し、マラウイで見てきたことを児童たちに紹介した。膨大な資料の中から、「生活」「物の使い方」「課題」の3つのグループに分類できるものを選び、できるだけ児童が理解しやすいように写真を効果的に使用して作成した。それぞれのグループで留意したことは以下の通りである

- ①「生活」・・・自分たちと比較できる内容
- ②「物の使い方」・・・この後の国語科の教材文と関連付けることができるような内容

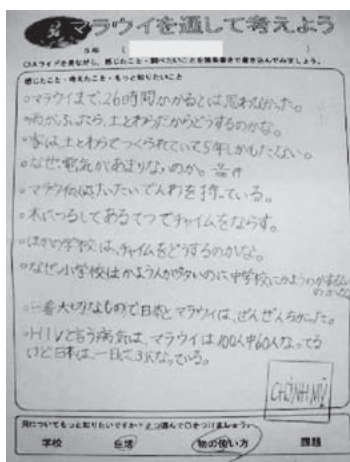
- ③「課題」・・・課題意識をもって地球に起きていることへ目を向けることができるような内容。
また次時に、マラウイの写真や生活用品を使って、児童がフォトランゲージや物ランゲージに取り組むので、パワーポイントをその際の参考になるような構成にした。
児童各自にマラウイで買ったノートを渡し、これからのマラウイについての学習の記録を、そのノートに取っていくようにした。児童は、マラウイのノートが日本のノートと比べて、品質がかなり劣っていることに驚いたが、マラウイの子供たちはそのノートを大切に使用していること、買えない子供もいることを告げると、「鉛筆で書くのが、すごく書きやすい。」とか「この曲がった線が特別な感じがする。」と言って大事にしたいという気持ちをもっていただようだった。

パワーポイントのクイズ①



パワーポイントのクイズ②

一番大切なもの		
	マラウイ6年生 (104人)	日本5年生 (58人)
1位	教育 (42%)	家族 (43%)
2位	労働者 (17%)	命 (18%)
3位	食料 (6%)	友達 (15%)



児童のワークシート

児童の感想

- ・家が壊れそうだなあ。
- ・マラウイのノートはぼろぼろだなあ。でも、買ってもらえない人もいるんだな。
- ・日本の豆と違って、豆が大きかった。
- ・子どもも携帯電話を持っているんだ。そんなものは、ないと思っていたので驚いた。
- ・一クラスが100人以上だと知ってびっくりした。教室もせまそう。

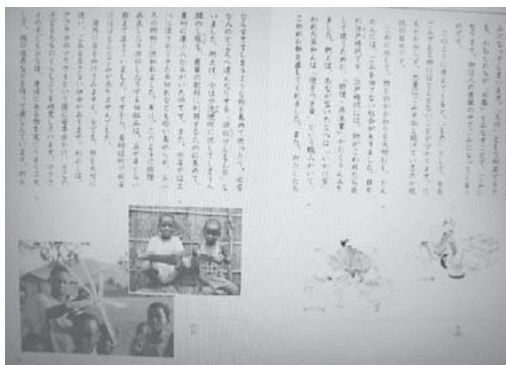
5~13時限目

人と「もの」との付き合い方

国語の教材文「人と『もの』との付き合い方」(光村図書5年上)を用いて、身の回りの物を大切にしているマラウイの人々や江戸時代の人々の生活を知った。そして、自分達を取り巻く環境問題について調べ発表した。

児童たちは、マラウイの子ども達が、ペットボトルを再利用しておもちゃを作っていることを知って、感心していた。そして、それほど物を大切にしているマラウイなら、ごみの量は日本と比べてかなり少ないに違いないと予想をもち、図書やインターネットで調べてみたが、資料に限界があり、調べたい情報をすべて入手することはできなかった。

それでも、ごみが増え続ける一方の地球環境に危機感をもち、マラウイや江戸時代の人の生活の工夫を見習わなければいけないという思いを強くした児童が多かった。



国語の教科書 (一部)

〈児童が環境問題に関する発表で取り上げた題材〉

- ・江戸時代のリサイクル術 (インターネットより)
- ・日本のごみ事情 (図書より)
- ・自分にできるごみの再利用 (図書を参考に自分で考えて)
- ・現代のリサイクル技術 (図書、インターネットより)
- ・フィンランドのリサイクルショップ(インターネットより)

児童の感想

- ・マラウイの人は物を大切にしている。日本も江戸時代は、マラウイの人みたいに物を大切にしていたんだなあ。
- ・マラウイにはごみはあんまりないのだろうか。ごみの量を調べてみたいなあ。

14・15時限目

マラウイクイズをしよう

児童の希望で「生活」「物の使い方」「課題」のグループに分かれ、クイズを作った。

それぞれの写真や生活用品には、説明をつけておき、児童が自分達でマラウイについての知識を学習しながら、クイズを作成することができるようにした。写真や生活用品は各グループ別に与えたので、児童は自分たちが知った情報をほかの児童に知らせて驚かせたいという思いをもちながら、楽しんでクイズづくりに取り組むことができた。

各グループが、写真の一部を紙で隠したクイズや、生活用品を見せてその用途を尋ねるクイズを作り、全体でクイズを出し合った。内容で難しい物もあったが、児童は自分たちの生活体験や日々のニュースから想像して答えていた。クイズの後に、マラウイの生活をまとめたDVDを見て、感想を発表し合った。動画は、とても分かりやすく、児童の心に印象深く残ったようだ。

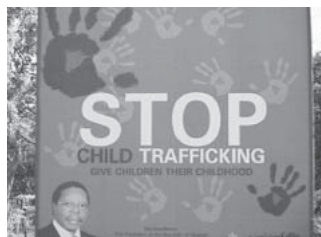
〈児童が作ったクイズ例〉



「このアメは、何の代わりに使われるでしょう?」



答え:
スーパーでもらう
少額のおつり



「チャイルドとは子どものことです。何をストップさせようと言っているのでしょうか?」



答え:
子どもの人身売買

児童の感想(クイズとDVD)より

- ・トイレを自分たちで掘って作ることに驚いた。
- ・貧しいけど、笑顔を忘れずに暮らしているんだな。
- ・将来、看護師になって人を助けたいと言っている人が多いのがすごい。
- ・授業では、ノートを写さなくて暗記することができた。
- ・日本人は贅沢をしていることが分かった。

16時限目

未来へ続く支援(心と心の結びつき)

マラウイで活動する(社)青年海外協力協会の丹羽さんの農業支援に取り組む姿勢を取り上げた道徳資料(資料1)を自作した。よりよい国際協力のあり方を探る丹羽さんの心情を考えるための役割演技を通して、「一時的に物を与えるだけよりその村にずっと根付いていく国際協力をしたい」という丹羽さんの心情に気付くことができるようにしていった。授業を前に、現在マラウイで活動中の丹羽さんにメールで連絡を取り、児童へのメッセージもいただいた。

児童の多くは、国際協力と言えば、募金をすることしか知らなかったが、丹羽さんの存在を知り、募金以外にも同じ人間として助け合っていくことの価値に気付くことができた。

児童の感想 (困っている国を支援することについてどう思いますか?)

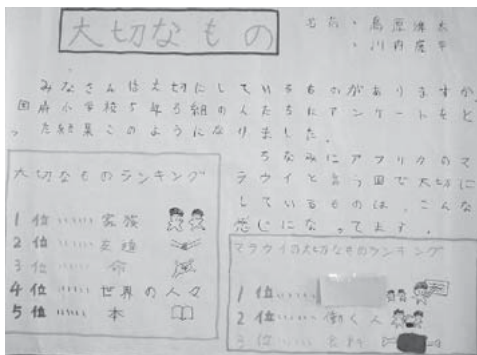
- ・いいことだと思うし、助けたいからすごいと思う。困っている時はお互い様で、助けてあげることが一番だと思う。私も丹羽さんみたいにいろいろなことを教えてあげたい。
- ・とてもいいことだと思う。だって、困っている人を助けるということは、自分だけじゃなくて、世界にも目がいつているということだから、その人は世界の人に優しいし、すごく尊敬できる。

17~21時限目

地球に生きる私たち

学級で、同じ地球に生きる人間として、今の自分たちにできることは何なのかを考えた。

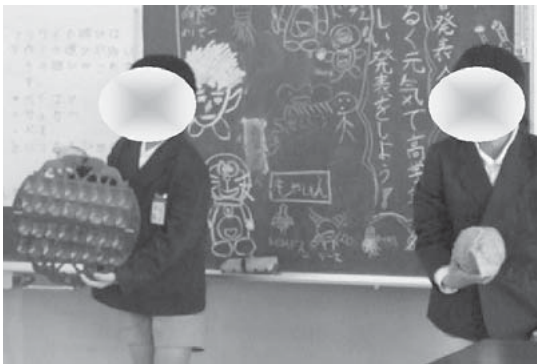
すると、自分たちが学んだマラウイについての知識を他の人にも広めたいという声が上がった。そこで、「宇宙人が地球について学ぶための教科書を作ろう」という活動を設定し、自分が伝えたい内容ごとのグループに分かれて、地球の情報をまとめ、学習発表会で発表した。



自分たちとマラウイの「大切な物」比較



民族衣装のファッションショー



マラウイの遊びについておうちのの人にクイズ

児童の感想

- ・マラウイのクイズを、おうちの人が楽しく解いてくれてよかった。
- ・世界の国は、その国の誇りをもって国歌をつくっているんだな。実際にマラウイ国歌を演奏できてうれしかった。
- ・宇宙人用の教科書を作るのがおもしろかった。
- ・今回、地球のいいところと悪いところをみんなにアンケートを取って調べてみて、こんなところがあるんだなと分かった。悪いところは、これから直していきたいと思った。
- ・地球の環境について調べてみて、世界でこんなにたくさんの動物が絶滅していることを知って驚いた。今、地球の環境はどんどん悪くなっている。私たちは、ごみを減らすなど、身の回りのできることからできるだけ取り組んでいって、環境が悪くならないようにしたい。

<学習発表会での保護者の感想>

- ・今まで知らなかったマラウイのことを、初めて聞いて興味をもてた。分かりやすくもおもしろい発表にまとめた。

成果と課題

「マラウイと自分たちの共通点や相違点に気付く」ことについて

学習後、児童はマラウイをととても身近に感じることができるようになった。他の学習で、外国のことが出ると、「マラウイは～だった。」というように、マラウイの情報と比較したつぶやきが聞かれることもあった。

児童は、どの学習過程においても常に自分たちの生活や文化を思い起こし、マラウイの人々の生活と文化を比較して見ることができていた。共通点より相違点に驚いていた児童が多かったことから、アフリカは自分たちと全く違う地域だという先入観はあまりもっていなかったと考えられる。しかし、自分たちの生活は、マラウイの人の生活より豊かであるという思いを強くもった児童も多く、物質の豊かさだけでなく、心の豊かさに目を向けることができるような手だてが少なかったと思う。

「マラウイの人々や世界で生きる日本人の思いを感じとる」ことについて

最初に、元青年海外協力隊員の話をお聞きできたことは、導入としてとてもよかった。アフリカに対する児童の興味が一気に高まった。また、今まで知らなかった青年海外協力隊が海外で人助けをしているということを知り、日本人として誇りをもち、憧れた児童も多かった。

道徳の授業では、国際協力について考えたが、児童にとっては内容が少し高度すぎた。そのため、児童全員が丹羽さんの心情を深く感じとれたとは言えない。「困っているときは助け合う」、という初歩的な国際協用に焦点をあてたほうが発達段階に合っていたかもしれない。

国語科の教材文の読解では、ごみを再利用してたくましく生きるマラウイの人達の思いを感じる

ことはできたと思う。マラウイの人々の、物を大切に、工夫して生活していきたいという思いをしっかりと読み取ることができていた。

しかし、できれば現在マラウイで活動している青年海外協力隊員と、メールのやりとりができること、世界で生きる日本人の思いについてさらに深く感じとることができたと思う。

「課題意識をもって世界に視野を広げる」ことについて

今回は、マラウイのすばらしさと課題の二つを感じ取らせたいという思いをもって、授業を構成した。国語科の教科書にマラウイの人々の知恵が取り上げられていたのは、単元を組む上でとても役立った。マラウイの課題については、5年生の発達段階では踏み込んだ内容を取り扱うことは難しい。しかし貧困の中でも、生活を工夫して生きるマラウイの人々のたくましさを押さえた後、マラウイだけでなく日本も含めた地球全体の環境問題を取り上げることで、自分たちの生活を振り返ることもつながり、5年生なりの課題意識をもつことができた。

地球環境に関する児童の課題意識が育ってきたと感じられるのは、日常生活において、児童が以前よりものを大切にするようになったことだ。

以前は、画用紙を使うときでも、残った切れ端をすぐ捨てていたが、学習後は何か他のことに使えないかと考えることができるようになった。また、教室のカーテンが破れているのを見て、自分たちのいらぬ服を持ち寄って、パッチワークの要領でつなぎ合わせ、学級独自のカーテンを作ったら面白いというアイデアを出す児童も出てきた。

マラウイの人々の生活を知り、自分たちの生活を振り返ることができたからこそ、今の環境を少しでも良くしていきたいという思いをもつことができるようになったのだと思う。

